

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2007年11月号 (<http://www2.iee.or.jp/~ias/kiji2007.htm>)

「産業応用部門の改革と研究調査運営委員会について」



電気学会産業応用部門研究調査運営委員会委員長
玉井 伸三〔東芝三菱電機産業システム(株)〕

この原稿は8月に書いていますが、毎年この時期になると第二次世界大戦に関する報道をいろいろ目にします。最近読んだ記事で、太平洋戦争における日本の敗戦の理由のひとつに、日清、日露戦争の戦勝による驕りがあったというものがありません。アメリカは航空機の発達を認識して航空機中心の戦略に変わっていったが、日本は指導者の考え方が日本海開戦時の大艦巨砲主義のまま変わらなかった。一時期の成功体験に酔って自らを変えていかないと、継続的な繁栄はないものなのでしょう。貴重な教訓を忘れないよう心がけたいものです。

さて、電気学会産業応用部門(D部門)は役員会の下、研究調査運営委員会、編修広報委員会、論文委員会の3つの大きな組織より構成されています。

D部門では現在までいろいろな見直しが議論され、上記3委員会の縦割り体質を改め、有機的結合による活性化を理念として、主に以下の改革が実施されました。

- ・ 部門独立運営の基本方針の下、部門大会、編修広報を部門中心に運営
- ・ 編修委員会、広報委員会の統合(新編修広報委員会)
- ・ 部門誌の純粋論文誌化(News Letterの別冊子化)
- ・ 論文委員会の独立と編修長の創設
- ・ 研究調査運営委員会と論文委員会の連携強化
- ・ 電子投稿システム、電子査読システムの構築と導入

研究調査運営委員会に関しては、その中に13の技術委員会があります。その技術委員会から特集論文の企画が継続的にでてくる仕組みが改革の中で構築され、毎年開催している研究会をベースにした質の高い論文の増加が図られ、論文誌の充実に貢献しています。また、国際会議の開催においても技術委員会のサポートによって円滑な運営がなされ、これも論文誌に国際会議特集号を組むことにより、論文誌の充実、英文論文増加、海外からの投稿増に貢献してきています。

また、電気学会では昨年、中長期ビジョンの策定、実行を開始しました。昨年は「学会プレゼンスの向上」、「会員メリットの向上」、「学術の創出と支援」、「人材の創出・育成」、「科学技術政策への関与」、「標準規格開発への参画」、「国際活動推進」、「運営基盤増強」の7つのグランドデザインを決め、3~5年程度を目標にしたマスタープランを決定し、今年からそれらに基づくアクションプランの策定、実行に移っています。

ところで皆さん、電気学会の会員の57%は企業の社員であることをご存知でしょうか？ 中長期ビジョンでは、会員メリットの向上を挙げ、具体的な方策を検討します。50%を超える構成比の企業の会員の方々をもっと電気学会を利用して電気学会へ入るメリット、意義を感じていただくことが必要だと思っています。部門の中では、企業会員の皆様と多くの接点を持つ研究調査運営委員会が企業会員メリット向上のポテンシャルを持っており、例えば下記の取り組みの強化が考えられます。

・ 新規技術への取り組み強化

電気学会の重要な仕事の一つに標準規格の制定があります。タイムリーな規格作りを行い、業界標準、世界標準を目指すような活動を続けていくことが必要です。

・ 基盤技術への取り組み強化

古い技術を別の新しい技術と組み合わせるとイノベーションが生まれやすくなるものです。他の分野との交流の場としてもっと多くの試みがあるものと思われたい。

・ 人材育成強化

企業の人材育成の場としてもっと学会を活用できないでしょうか？ 技術発表だけでなく、研究調査の中で若い会員の方々の活躍の場をもっと作ることが出来ると思います。

研究調査運営委員会は皆様のアイデアを議論し、できることから着手していきたいと考えています。D部門会員皆様のご参加とご支援をよろしくお願いいたします。